

午以結骨部置堅昆都督府」と見ゆるが、此の事は新唐書黠戛斯傳には、「二十二年聞鐵勒等已入臣、即遣使者獻方物、其酋長俟利發失發屈阿梭身入朝……帝以其地爲堅昆府、拜俟利發左屯衛大將軍、即爲都督、隸燕然都護」と見ゆ、此の如く二十二年二月黠戛斯(Kirghiz)が入朝したるは既に鐵勒諸部が唐に臣となりしを聞きたるに由れるものなると共に、此の時其の部を以て堅昆府と爲し、燕然都護に隸せしめたりと曰へば、燕然都護府の置かれて、鐵勒諸部の六府七州を轄するに至りしは、勿論此の二十二年二月より以前の事なりしに相違無し、茲に於てか之に關する最も信じ得べき年次は、新唐書回鶻傳に二十一年とし、同書本紀に二十一年正月甲寅とせるものにして、此の前年即ち二十年既に鐵勒諸部が唐に歸服せしを、茲に至りて府州を置きて管轄し、回鶻部には瀚海都督府を置くに至りしものと見ざる可らず。

さて薛延陀の滅亡後、北方に於て最も強大なる勢を有せしものは回鶻なりしこと疑無ければ、若し北方の形勢が從來の勢を追ひて進まば、諸部の間に於ける渠長の位置は、自然に回鶻の上に歸したるものなりしなるべく、實に此の年(貞觀二十一年)吐迷度が唐より懷化大將軍瀚海都督に拜せらるゝや、舊唐書迴紇傳によれば「時吐迷度已自稱可汗、署官號、皆如突厥故事」と見え、新唐書回鶻傳にも「然私自號可汗、署官吏、壹似突厥、有外宰相六、(二五)內宰相三、又有都督將軍司馬之號」と記せり、然も未だ之をして諸部を一統して其の上に可汗たるを得せしむるに至らざりしものは、全く當時唐の強大なる勢力が、北方を威壓するに足るものありしに由れるが如し、前に見たるが如く、薛延陀の多彌可汗は、多くの部衆と共に回鶻の爲に殺されたりしが、夷男の兄の子咄摩支が、餘衆を保ちて伊特勿失可汗と號し、次で可汗の號を去りて使を唐に遣し、鬱督軍山を保たんことを請ふや、太宗は崔敦禮及び李勣